

令和5年度 奈良県立大和中央高等学校 定時制課程 学校評価計画表	
年度	令和5年度（中期計画2年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	・生徒の学習ニーズやライフスタイル等に応じた学習機会の提供 ・生徒の「個別最適な学び」や「学び直し」等に関する支援
年度重点目標	(1) 自立した社会人となるための基礎形成を図る。 (2) 生徒理解による基礎学力の定着に努める。 (3) 高校通級の研究取組として研究取組の充実に努める。 (4) 好ましい人間関係構築能力や社会性を育む。 (5) 生徒の安全を守る取組の推進。 (6) 「命」を大切に行動できるよう、生徒への浸透を図る。 (7) 働き方改革の推進を行う。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	本校定時制課程では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 1 本校の教育方針や教育内容を理解し、目標に向け自らの意思で学ぼうとする意欲をもつ生徒。 2 自分の生活リズムや職業等に合わせて学び、高等学校卒業を目指す生徒。 3 基本的生活習慣、基礎的・基本的な学力、規範意識等社会で必要な力を身に付けていきたいと願う生徒。 4 新たな学校生活の中で自分を見つめ、新しい自分の発見や成長を目指す生徒。 5 多様な価値観や一人ひとりの違いを認めつつ、仲間と共に高め合いいたいと願う生徒。
	本校定時制課程では、「自律」「敬愛」「進取」の校訓のもと、以下のような教育活動を行います。 1 単位制の特徴を生かし、生徒が自らに適した教材・科目を積極的に選択できる教育課程を編成する。 2 基礎的・基本的な学力の充実や社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力の習得を目指した学校設定科目を設定する。 3 共通科目に加え、商業科・家庭科等において、生徒の資格・検定等の取得につながる専門科目を設定する。 4 高等学校卒業程度認定試験や各種検定等で取得した単位を卒業単位として認定するなど、生徒の積極的な学びを評価し、3年修業による卒業の選択も可能とする。 5 定期的なスクーリング等によるきめ細かい生徒理解に努め、SC（スクールカウンセラー）・SSW（スクールソーシャルワーカー）や関係機関等と連携した支援を推進する。 6 多様な生徒の学びを保証するため、UDL（学びのユニバーサルデザイン）を意識した授業づくりに取り組む。 7 生徒の学習上・生活上の困難等の改善・克服を図るため、「通級による指導」を実施する。 8 HRや総合的な探究の時間・部活動を通して、生徒の社会性や人権意識の醸成、自己管理能力や望ましい勤労観等の獲得、進路実現等を支援する。 9 BYODの活用等、ICTを活用した教育活動の充実を図る。
	本校定時制課程では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 1 自主自立の精神をもって自分がなすべきことを適切に判断し、行動できる。 2 情操豊かな心をもて、自他の人格を尊重できる。 3 自ら進んで目標を定め、その達成に向けて真剣に努力し、未来を切り開いていくたくましさをもつ。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和5年度末の目標値等（C）	令和5年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	自己肯定感の醸成	ボランティア活動関連学校行事を毎期実施	ボランティア活動関連学校行事を年2回以上実施			
	他者への寛容なこころの育成	幼稚園・老人ホーム等への訪問を毎年実施	幼稚園訪問1回以上実施する。			
	望ましい食習慣の確立	「食生活レター」を毎月発行	「食生活レター」を毎月1部発行			
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	わかる授業の創出	UDLに関する職員研修を毎期実施	UDLに関する職員研修を年2回実施			
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数の増加	授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答者数70%以上			
	ICT教育の推進	令和4年度以降入学生の全授業でBYOD端末活用	令和4年度以降入学生の授業でBYOD端末活用を100%にする。			
	学校内の課題の共有や業務の適正化等、働き方改革を推進する	業務の改善、効率化	業務の改善、効率化について話し合う場を年2回以上持つ。			
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	産業界との連携の推進	企業等を招いての「進路ガイダンス」を毎年実施	企業等を招いての「進路ガイダンス」を最低1回実施			
	職業体験の充実	全ての学校求人による就職希望生徒75%以上に職場体験または職場見学を実施	全ての学校求人による就職希望生徒70%以上に職場体験または職場見学を実施			
	学び直し（リカレント教育）の機会提供	学び直しに関する積極的な広報活動	学び直しに関する積極的な広報活動を20箇所以上で行う			
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会を毎年2回以上実施	学校運営協議会を2回以上実施			
	地域における多様な体験活動機会の創出	「集中総合講座」を毎年実施	「集中総合講座」を20講座以上実施			
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」の学習成果の蓄積	「奈良TIME」授業アンケート「自分はこの授業に熱心に取り組んだ」の肯定的回答80%以上			
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	生徒理解に基づく生徒支援の充実	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を毎期実施	全生徒対象のスクリーニングアンケート及び全教員での生徒理解研修を年2回実施			
	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	生徒が回答しやすくなるために、設問を変えたいじめアンケートを期ごとに実施	生徒が回答しやすくなるために、設問を変えたいじめアンケートを年2回実施			
	通級指導の推進	通級指導対象全生徒について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成	通級指導対象生徒、全員について個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成			

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

--